

令和5年 日本女子大学教育学科の会臨時総会

日時 令和5年10月7日(土)
午後12時30分～（開場12時00分）

場所 日本女子大学120年館 12001教室

開催形式 対面とzoomのハイブリット

※ オンラインでの参加申し込みの方へは、前日までにzoom URLを送付

式次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 総会成立報告
4. 議事 「教育学科の会解散審議」
5. 採決
6. 懇談
7. 連絡事項
8. 閉会

以上

令和5年10月7日(土)

提案書

日本女子大学教育学科の会
卒業生理事一同

【提案内容】

以下に記載する現状と将来の見通しを考えると、本会を現体制のまま存続させることは困難であるため、2024年3月31日をもって解散することを提案いたします。

【提案理由】

・理事会運営と後継問題

- ① 本会はボランティアで実務全般を担当する卒業生理事と、学生委員会の代表者(3年生)と学科の担当教員で構成された理事会で運営されてきた。だが、今年度の学生委員が決まらず学生参加の見通しが立っていない。
- ② 卒業生理事の選出母体である回生委員会は有名無実化し、理事会の承継組織としての機能を消失してから久しい。その結果、会則に規定された理事数の定員割れが長年続き、理事の多くは後継者が現れないまま10年20年もの長期在任に耐えている。今年度は助けに入ってくれた新理事達によって多少の世代交代はできたものの、現在の理事会の後継体制が限界なのは既に明白。

・名簿問題

- ① 学科は、2022年から個人情報の厳格化やコンプライアンスの徹底に配慮した措置として、これまでおこなわれてきた新卒生の本会員への移行を任意とし、会員登録と会費納付を個人個人で行う形に変更。それによって2022年卒の72回生以降の卒業生全員の名簿を本会が取得することは事実上不可能になり、同窓縦の会として既に運営上のダメージが生じている。
- ② 名簿管理を行っているクラウド型システムの事務作業が経費節減のためイレギュラーな手入力作業が増え、担当理事の負担が非常に重くなってきている。

・会費問題

- ① 新卒生に加えて新入生の本会入会と学生会費納入も今年度から任意となり、会費を半額にした。だが会費納入会員と未納会員の差別化や、納入会費の違いを他学年にどう納得してもらうか等の多くの課題が解決されていない。
- ② 卒業生会員のうち会費納入者は約500人だが、その多くは65歳～85歳までの会員。卒業翌年～卒後40年迄の会費納入会員は各回生で0～数人。任意となった今年度の新卒生は8人。新入生も同程度であればもはや正常な予算が組めず、将来の見通しも立たない。

【総括】 以上のような理由から、本会は資金面、運営面においても限界に近付きつつあると思料します。この1年、会則改定や会計の見直し、デジタル化の促進、WEBセミナーの開催などを懸命に行っていました。会員の関心を喚起するには至らず、今後の事態好転の材料も見当たりません。解散に至るにも、4年分先払いの学生会費の返却資金や膨大な事務作業が必要ですので、更なる状況悪化の前の解散決定が、本会にとって最善の選択であるとの結論に達しました。何卒諸事ご賢察の上、臨時総会において本提案を前向きにご審議いただきたくお願い申し上げます。

以上